

夏目漱石，森鷗外

2016 年追試

問 8 次のア～ウは，個人のあり方について考えを深めた文学者について説明したものであるが，それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

27

ア イギリス留学の体験から，明治以降の近代化は皮相なものであったと捉えた。日本においては各人の自己確立が不十分であると考え，他者の存在を尊重しつつも，「自己本位」によって生きることを重視した。

イ 自己を取り巻く停滞的な当時の状況を「時代閉塞」と捉え，国家をはじめとする強権へと目を向けることが重要であると主張した。また，大逆事件を契機に，社会主義への関心も深めていった。

ウ 自己の内面的な欲求と社会的な責務という，個人と社会との矛盾に苦悩した。この矛盾を統一するあり方として，自己の使命や責務を冷静に引き受ける，「レジグナチオン(諦め)」の境地を見いだした。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|------|
| ① | ア | 国木田独歩 | イ | 石川啄木 | ウ | 志賀直哉 |
| ② | ア | 国木田独歩 | イ | 石川啄木 | ウ | 森鷗外 |
| ③ | ア | 国木田独歩 | イ | 北村透谷 | ウ | 志賀直哉 |
| ④ | ア | 国木田独歩 | イ | 北村透谷 | ウ | 森鷗外 |
| ⑤ | ア | 夏目漱石 | イ | 石川啄木 | ウ | 志賀直哉 |
| ⑥ | ア | 夏目漱石 | イ | 石川啄木 | ウ | 森鷗外 |
| ⑦ | ア | 夏目漱石 | イ | 北村透谷 | ウ | 志賀直哉 |
| ⑧ | ア | 夏目漱石 | イ | 北村透谷 | ウ | 森鷗外 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 8	27	⑥	3

2014年追試

問6 日本の近代化について述べた夏目漱石の次の文章を読み、その説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 25

日本の開化は自然の波動を描いて甲の波が乙の波を生み乙の波が丙の波を押し出すように内発的に進んでいるかというのが当面の問題なのですが、残念ながらそう行って居ないので困るのです。……日本の現代の開化を支配している波は西洋の潮流で、その波を渡る日本人は西洋人でないのだから、新しい波が寄せるたびに、自分がその中でいさうろうをして気兼ねをしているような気持ちになる。新しい波はとにかく、今しがたようやくの思いで脱却した ^{ふる}旧い波の特質やら真相やらも ^{わかま}弁えるひまのないうちに、もう棄てなければならなくなってしまう。……これは開化じゃない、開化の一端ともいえないほどの ^き些 ^{さい}細な事である。……我々のやっている事は内発的でない、外発的である。これを一言にしていえば、現代日本の開化は皮相上滑りの開化であるということに帰着するのであります。……それが悪いからおよしなさいというのではない。事実やむをえない、涙を ^の呑んで上滑りに滑って行かなければならないというのです。

(「現代日本の開化」より)

- ① 現代の開化は、皮相で外発的なものであり、それは受動的に時代に流されているということである。日本の開化は受け身ではなく、主体的で内発的な近代化でなければならないし、それは可能であると漱石は主張している。
- ② 随時新しいものを輸入し、以前の考え方を刷新することで、内発的な近代化が可能になる。新しいものを取り入れることには苦勞が伴うが、その苦勞を引き受けることで、真の近代化が可能になると漱石は述べている。
- ③ 西洋の新しいものを単に受け入れるのではなく、その中身を吟味し消化する内発的な近代化が大切であるが、実現は困難である。内発的な近代化という理想と、外発的な近代化が進む現状との落差を、漱石は指摘している。
- ④ 現代の開化は、西洋の内発的で順調な近代化と比較して、正常なコースを大きく外れたものである。このままでは日本は西洋に追いつくことはできな

いと、嘆くしかない悲観的な現実認識を漱石は示している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問6	25	③	3

2012 年追試

問5 次のア～エは、他者と自己の関係について考えた人物であり、A～Dはその考えである。これらの人物とその考えの組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

35

- ア 宮沢賢治
- イ レヴィナス
- ウ マザー・テレサ
- エ 夏目漱石

- A 自己の理解を絶対的に超える他者が現れ、自己がその他者に無限の責任を負うことが、人間の倫理的なあり方である。
- B 世界全体の幸福なくして個人の幸福はないので、宇宙万象とのつながりを自覚することで、他者への共感を強めていくことが重要である。
- C 他者に迎合するのではなく、他者への依存を捨てると同時に他者を尊重する自己本位によって生きることが重要である。
- D 誰^{だれ}からも見捨てられ、本当に困窮している他者に対して、愛と憐^{あわ}れみをもたずに無関心でいることが最大の罪である。

- ① アーD イーA ウーC エーB
- ② アーC イーD ウーA エーB
- ③ アーB イーA ウーD エーC
- ④ アーA イーD ウーC エーB
- ⑤ アーC イーA ウーD エーB
- ⑥ アーB イーD ウーA エーC
- ⑦ アーC イーB ウーD エーA
- ⑧ アーB イーC ウーD エーA

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第5問	問5	35	③	3

2011 年本試

問 7 夏目漱石が晩年になって求めたとされる考え方として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 小さな自我に対するこだわりを捨て，自我を超えたより大いなるものに従って生きるという，東洋の伝統的な思想にみられる考え方
- ② むやみに自我を主張するのではなく，現実的な世俗社会の中で生きる自己をありのままに受け入れ，そこに安んじようとする考え方
- ③ 主観と客観とが未分化で，知・情・意も未分化な状態こそ，人格が真に実現されたあり方であり，そこに真の自我があるという考え方
- ④ 真の自我は，個人と社会との弁証法的な相互作用によって成立すべきであり，どちらか一方のみに片寄ることが悪だとする考え方

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問7	20	①	2

2010 年追試

問 6 英国に留学し疎外感に苦しんだ夏目漱石は、他者との比較によらない自己本位の立場から思想を築くことを説いた。漱石のこのような立場を示す態度として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 「自他の区別を忘れて、どうかあいつもおれの仲間引き摺り込んで遣ろう」とする態度
- ② 「自分の幸福のために自分の個性を發展して行くと同時に、その自由を他にも与えなければ済まん事だ」とする態度
- ③ 「自分の酒を人に飲んでもらって、後からその品評を聴いて、それを理が非でもそうだとしてしまう」という態度
- ④ 「到底わが所有とも血とも肉ともいわれない、余所余所しいものを我物顔に喋舌って歩く」という態度

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	19	②	3

2008 年本試

問 6 個人主義は夏目漱石の理解によればどのようなものであったか。それを表す記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 真の利己心を発揮すれば、それが人類全体のためになるように人間はつくられている。そこにこそ人間の価値がある。
- ② 単なるエゴイズムは否定されるべきもので、自己の義務を自覚し、他人の自由をも認める者が、あるべき個人である。
- ③ 小なる自己が乗り越えられ、自己と世界が統一されることによって、独我論を超えた真の個人に到達することができる。
- ④ 古い思想や世間の常識をうち破り、宇宙・自然を我が身で直接感受することによって、自由な個人となることができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	19	②	3

2006 年本試

問 6 夏目漱石は、日本の文明開化の特殊性のために多くの日本人が「神経衰弱」に陥らざるをえないと述べている。そのことについて論じた次の文章中の ・ に入れるのに最も適当な組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

それで現代日本の開化は前に述べた一般の開化とどこが違うかというのが問題です。もし一言にしてこの問題を決しようとするならば私はこう断じたい、西洋の開化(すなわち一般の開化)は であって、日本の現代の開化は である。

(夏目漱石「現代日本の開化」)

- ① a 自然的 b 人為的 ② a 内発的 b 外発的
③ a 先進的 b 後進的 ④ a 民主的 b 封建的

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	19	②	2

2005 年本試

問 6 森鷗外が自らの立場とした「諦念」について説明した記述として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 自我と社会の矛盾に遭遇したとき，あくまで自己を貫くのではなく，自らの社会的な立場を冷静に引き受けながらも，なおそこに自己を埋没させまいとする立場。
- ② 自我と社会の矛盾に遭遇したとき，小さな自我に対するこだわりを捨て，自我を超えたより大きなものへと自らを委ねることで，心の安らぎを得ようとする立場。
- ③ 自我と社会の矛盾に遭遇したとき，あくまで自己を貫くのではなく，欲求の実現を断念し現実から逃れることで，社会から独立した自己を実現しようとする立場。
- ④ 自我と社会の矛盾に遭遇したとき，小さな自我に対するこだわりを捨て，社会的要請に応えることに自らの理想を見いだして，人格の完成を目指そうとする立場。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	①	3

2001年追試

問7 「思想的葛藤」は、夏目漱石『それから』の一節においても見ることができる。

本文の趣旨を念頭におきつつ、主人公・代助を通じて漱石が表現しようとした考えを説明する文として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

(原文を一部省略・変更して引用した。) 25

親爺おやじの頭の上に、「誠者まこと天の道のちのちなり」という額が麗々と掛けてある。先代の旧藩主に書いてもらったとか言って、親爺はもっとも珍重している。代助はこの額がはなはだ嫌である。だいいち字が嫌だ。そのうえ文句が気に入らない。「誠は天の道なり」の後へ、「人の道にあらず」と付け加えたいような心持ちがする。(中略——旧藩士であった代助の父、長井には、町人に頭を下げて藩財政を再建した功績によって、この額をもらったという過去があった。)

こういう過去の歴史を持っていて、この過去の歴史以外には、一步も踏み出して考える事を敢あえてしない長井は、何によらず、誠実と熱心へ持って行きたがる。

「お前は、どういうものか、誠実と熱心が欠けているようだ。それじゃいかん。だから何にもできないんだ」

「誠実も熱心もあるんですが、ただ人事上に応用できないんです」

「どういう訳で」

代助はまた返答に窮した。代助の考えによると、誠実だろうが、熱心だろうが、自分が出来合いの奴やつを胸に蓄えているんじゃないかって、石と鉄と触れて火花の出るように、相手次第で摩擦の具合がうまく行けば、当事者二人の間に起こるべき現象である。自分の有する性質というよりはむしろ精神の交換作用である。だから相手が悪くっては起こりようがない。

「お父さんは論語だの、王陽明だのという、金の延金のべがねを呑んでいらっしゃるから、そういう事をおっしゃるんでしょう」

- ① 他者との関係を断ち切った個人主義的な徳目こそが、近世とは異なった形で要求されていると考えている。
- ② 伝統的な徳目を人生の指針として保持できるように、従来の生活習慣に戻

すべきであると考えている。

- ③ 人と人との生き生きした ^{かか} 関わりの中で徳目を捉えずに，その解釈が硬直化してしまったと考えている。
- ④ 徳目の意味は時代の変化に影響されることがないので，本来の意味を厳密に守り，そこからの逸脱を避けて理解すべきであると考えている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問7	25	③	4